

一般外国語（英語以外）教育を考える

—— アンケートとヒアリング ——

一般外国語部会

大学当局の「語学教育の改革」計画にしたがって、本学の一般外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語）教育の質の向上と充実を図ることは、国際化時代に即した本学のイメージ・アップの重要な一要素である。

一般外国語部会では、第一回の試みとして、去る6月5日（水）、一般外国語教育に関心を持っておられる先生方のご意見を拝聴した。

出席された方は、経済学部貿易学科の富岡倍雄先生、同経済学科の中村平八先生。工学部機械工学科の赤沢正久先生。外国語学部スペイン語学科の大林文彦先生、同一般英語の松山正男先生、保崎則雄先生。以上である。一般外語部会の中本、犬飼、塚田、佐藤、倉田がそれぞれの立場で応答した。

部会で用意したアンケートの主な事項と答は、以下のとおりである。

I 「一般外国語を選択必修科目にすべきか、あるいは、自由科目（卒業単位にならない科目）にすべきか」

〔本学では、外国語学部の英語英文学科は初級・中級とも選択必修、経済学部は初級のみ選択必修、短期大学は、フランス語か中国語の初級のみ選択必修。

W大学では、初級・中級とも選択必修。
C大学では、初級・中級とも選択必修。
A大学では、初級のみ選択必修。
Y S大学では、初級・中級とも選択必修。

一般外国語（初級・中級）を自由科目として扱っている大学はごく少数である。〕

○初級・中級とも選択必修とする。(富岡)

○初級・中級とも選択必修とする。(松山)

○初級のみ選択必修とする。(保崎)

○英語を必修課目とせず、他の外国語の中からいずれかを選択必修とする。(赤沢)

○自由科目のままでよい。(大林)

II 「一般外国語は、週何コマが適当か」

〔本学の一般外国語授業のコマ数は、初級週2コマ、中級週2コマ。短期大学は週3コマ。

W大学では、初級（文学部・週4コマ、他学部・週3コマ、中級週3コマ。

C大学では、初級週2コマ、中級週2コマ。

K大学では、毎日1コマ（集中的の語学を修得する）。

かなり多数の大学が一週間のコマ数を検討している]

- 初級3コマ、中級2コマとする。(富岡)
- 初級3コマ、中級2コマとする。(赤沢)
- 初級3コマ、中級2コマとする。(松山)
- 初級以外、特コマを設けない。(保崎)

Ⅲ 本学では、一般外国語の初級・中級の上に「上級クラス」(2コマ)が設けられていて、3、4年次生対象の自由科目として扱われている。文部省の指示によれば、この科目は「…事情」「…文化論」などの名称に変えて専門科目として扱うことになっているが、今度の改革でどのようにするか。C大学など他大学では、専門科目の外書講読の振替えたり、廃止したりしている。

- 各学部・学科の意向にしたがって専門科目とする。(富岡)
- 各学部・学科の意向にしたがって専門科目とする。(松山)
- 工学部の場合、実用と結びついたドイツ語を、たとえば、「ドイツ科学技術事情」などと称して教えてはどうか。(赤沢)

Ⅳ 本学では、一般外国語担当の専任外国人教員がいないが、今日の若者の傾向として「会話」の習得を強く希望しており、非常勤外国人講師のクラスはいずれも多数の学生が出席している。

本学の一般外国語教育に外国人専任教員を採用することは必要ではないのか。

[一般英語には専任外国人教員がいる。]

- 必要である。(富岡)
- 必要である。(松山)
- 必要である。(但し、語学のための語学でなく、語学と関係のない専門も持った人がよい)(保崎)

その他、自由な論議として、以下のような発言があった。「横浜という国際都市を背景に、外国語が使える卒業生を社会は要求している」(松山)

「第二の外国語の重要性は言を俟たない。その必要性を学生のガイダンスで行ない、第二の外国

語履修の動機づけを与える必要がある」

(中村平八)

「第二の外国語学習の動機づけが必要だ」(赤沢)
「神奈川大学のアイデンティティーは何かという場合、“語学教育”だと言いたい」(中村平八)
「第一外国語、第二外国語の転換をして、一般外国語のいずれかを第一外国語にするほうがよい」(赤沢)

「経済学部が第二の外国語を選択必修にしたのは成功であった」(富岡)

「教え方を更に考えてほしい」(富岡)

「工学部的用語を教えてほしい」(赤沢)

「フランス語の場合、中級クラスで、文学的なものと同時に法律・経済・科学技術などの文献の抜粋を読むクラスもある」

「ドイツ語についてゲーテ・インスティトゥートで最初の二ヶ月で教えていることを本学でもやってほしい」(赤沢)

「第二の外国語について、“…語なら少し出来ます”と、威張って言えるくらいの実力をつけてほしい」(赤沢)

「朝鮮語やスワヒリ語など、アジア・アフリカの言語を教えるのはよい」(中村平八)

以上、一時間ほどの短い、しかし、熱心な話し合いの主な内容である。

終わりに、「一般外国語教育の改革には、大学当局としての語学教育の方針がどのようなものか明確に示してもらいたい」(塚田)との発言があった。

すでに一般外国語部会で意見が一致していることも含めて、今回の会合で提出され、早急に検討しなければならない問題点は、

- ①一般外国語の初級、ないし、初級・中級の選択必修化
- ②初級週3コマ、中級週2コマ
- ③専任外国人教員の採用
- ④「上級クラス」の取扱いであった。

一般外国語部会(中本運営委員)では、その他当面する種々な問題について検討しているが、より多くの方々から率直なご意見を期待して、近くヒヤリングを行なう予定である。

(文責 倉田)